はじめに

私の通勤路である林道ロンレー線の景色が変わっていき、春から初夏にかけての新緑が眩しい季節を感じさせる毎日です。とはいえ、暑い日が続いたと思えば急に霜が降りるなど、利賀の自然の厳しさも改めて実感している今日この頃です。

今年も、５月４日の春祭りに留学生が参加させていただきました。昨年度からの継続生たちは、練習に参加させていただけることを心待ちにしていた様子で、「早く練習始まらないかなぁ…」というつぶやきがセンター各所で聞こえてきました。留学生の中には大役を任せていただいた子もおり、前日は緊張した様子を見せていましたが、祭りも後半に差し掛かると、「もう終わっちゃうのかぁ…」と名残惜しそうにしていたのが印象的でした。

こうした子どもたちの姿を見ていると、春祭りに関わる諸々の体験は、留学生にとって本当に素晴らしいものになっているなと感じます。こうした体験の場を与えていただきました各地区の獅子舞関係者の皆様をはじめ、利賀村地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

また、5 月 13 日には小中合同運動会が開催され、留学生保護者も来園し、運動会の参観や準備、片付けも含め、参加をしました。小中学生全員が、そして保護者までもが競技だけでなく運動会の運営にも全力を注ぐ姿は、毎年のことながら利賀の教育の底力を実感するひと時となりました。

第３期生としての生活は始まったばかりですが、こうした経験をもとに成長していく子どもたちの姿に思いをはせながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

邑上　貴厚

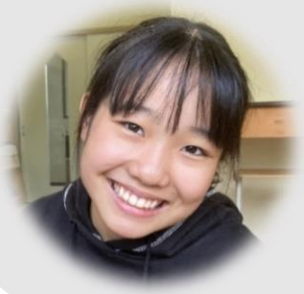
【活動日程】

4／22　田畑おこし
4／23　ホームステイ入り
5／2　センター入り
5／4　春祭り参加(上村･坂上･阿別当)
5／5　春祭り見学(百瀬･上百瀬)
5／6　味噌仕込み
5／7　代かき
5／14　親子山菜とり
5／15　庄川水資料館見学

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　／　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp　／　WEB：http://www.nanto-toga.com/

5／4　春祭り参加

　利賀村の伝統のひとつである各地区の春祭りに参加させていただきました。
　獅子舞の練習が新鮮で楽しかったようで、「やった今日は練習だ！」とウキウキして練習に行く留学生もいました。スターフォレストの前で獅子取りをさせてもらった留学生もおり、「スターフォレストで踊ったんだよ！」と他の留学生に自慢げに話していました。練習から最後の片付けまで参加させていただき、地域の方々とも沢山交流した充実感のある時間になりました。



私は春祭りで初めての経験をたくさんさせてもらいました。笛をやらせてもらったけれど全然覚えられなくて、本番もできる人のを見ながら指を動かすのに一生けん命であまりできなかったけれど、とても楽しかったです。こんなにたくさんの地域の人みんなでやる行事がある事にはじめはびっくりしたけど、とても楽しかったし、またやりたいなと思いました。（はるな）

5／6　味噌仕込み

　自分たちで食べる味噌を自分たちで手作りをしました。作る前に麹や毎年作っている味噌を舐めて味を確かめました。「この麹意外と甘い！」「家の味噌より好きかも。」と作業前に盛り上がりました。地域の方に教わりながら、麹をほぐし大豆をミンチにして、全員交代で混ぜていきました。「ねっとりしてる！」「でっかい餅みたい！」と全員が目を輝かせていました。留学生手作りの味噌が、今年はどんな味に仕上がるのか楽しみです。

5／7　代かき

　田植えに向けて田んぼの土をかき混ぜる代かきをしました。皆で隙間ができないよう手をつなぎ、土を踏みしめてほぐしていきました。雨が降る悪天候の中でしたが、「いくぞー！！せーのっ！」と声を出しながら懸命に田んぼの土を踏んで、根気強く柔らかくしていきました。
　作業をしっかり終わらせた後は、リレーを開催！寒い中でしたが、地元生の参加者も一緒に、盛り上がるひと時になりました。

5／14　親子山菜とり

親子行事として山菜採りに行きました。地域の方のガイドを聞きながら「あそこにタラの芽あった。ちょっと手伝って！」と親子で採る姿や「すす竹いっぱい採る！」と中学生何人かで急斜面をよじ登って採る姿がみられました。留学生の兄弟も感化されて、後を追ってよじ登り、すす竹を採っていました。帰ってきた後は保護者と留学生が協力して山菜の天ぷらうどんを作りました。おかわりも続出で、終始楽しい行事となりました。

今年初めての親子行事をしました。今年は去年の餅つきと違い山菜採りに出かけました。僕はそんな山菜にくわしい訳では無いですが、初めて覚えたタラの芽だけを探していたら思っていた以上に採れました。しかし、タラの芽が好きだからと言っても、始末のし方がわからなかったので、ここでタラの芽の食べ方も教われたのでよかったです。（たかひと）

5／15　庄川水資料館見学

この日は高峰山へ行く予定でしたが、朝には雨だったので、庄川水資料館の見学に行き、映像や展示を見て庄川沿いの歴史や文化を学びました。ジオラマの中に知っている利賀の地名を見つけると、興味津々で覗き込んでいました。見学を終えるころにはすっかり晴れ模様になっていたので、閑乗寺公園へ行き、砺波平野を眺めながらお弁当を食べ、景色をスケッチしました。「もっと時間がほしい！」「木をもっとうまく描きたいんだけど…」とそれぞれにこだわって、絵を描き上げていました。庄川沿いの文化と景色を知る一日になりました。

みらい留学農事歴

4/22 田畑おこし
4/23 種もみ蒔き
5/7　代かき

【畑】備中ぐわを持ち、畑おこしをしました。鍬を使うのが初めての人も、周囲を手本に集中して耕しました。手が空いている人は、石を取り除いたり堆肥をまいたりする作業も。湿った土を「重い！」「根っこが入っている…」など嘆きながら運んでいました。野菜を植える日もいよいよ間近です。

【田んぼ】最初のホームステイを前日に控えた４月22日(土)に田起こしの活動を行いました。畑起こしと並行して行ったので一日作業となり、「手が痛い～！」と鍬をふるい続けた子どもたちから声が上がっていました。また、翌日23 日(日)にはようやく種籾を育苗箱に蒔くことができ、田んぼの作業も本格化してきました。５月７日(日)には代かきの作業がありました。寒い日が続いており、苗の生育が心配ですが、５月中には田植えができるように苗を育てたいと思います。

保護者だより

利賀の皆さん、はじめまして。南砺市の隣の砺波市から山村留学に初めての参加となります、淺野と申します。参加しているのは真旭(まさあき)、中学校１年生です。

小学校６年生の夏にキャンプに参加して利賀の魅力にどっぷりはまった彼は地元の中学校へ進学するか、利賀の体験キャンプ、親子面接にチャレンジするかの選択を迫られた時、迷わず利賀を選びました。１月中旬に長期留学に参加できると分かった時は本当に嬉しそうにしていました。

我が家は真旭からみて両親と中学３年生の姉、そして大型犬のラブラドールレトリバーのハナと暮らしております。家から車で15分ほどいくと庄川があり、夏はハナと一緒に川で泳ぐなど自然が大好きです。危険なこともありますがそれも学びだと思っております。

利賀に行ってやりたいことを聞くといつも「釣り」と答えていました。利賀では普段の生活では経験できないような体験をみなさんのお力をお借りしてたくさん経験出来たらと思っています。入園のつどいではあたたかく迎えていただきとても嬉しかったです。

１年間どうぞよろしくお願いいたします。

娘は今年度で利賀での山村留学が２年目となります。利賀小学校から利賀中学校へ進学し、中学生になりました。地域の皆さまやセンターのスタッフの皆さま、共に生活をする留学生の仲間やご家族からお支え頂いたお陰で、貴重な経験を重ねる事が出来ました。心から感謝をお伝えしたいと思います。

２年目になると、前年の経験や、中学生の生活を間近で感じる事が出来ていたお陰で、１年間の見通しが立ちやすく目標を見つけやすくなっている様です。この曲を太鼓で叩ける様になりたい、中学生だから勉強を頑張りたい、英検を受けたい、など次々にやりたい事が思い付くのは山村留学の生活があるからこそと感じます。また、今年度は、センターで新しい留学生との出会いや、ホームステイのお宅では小さな子のお相手が出来る事も、楽しんでいる様です。

利賀の美味しい食事や規則正しい生活のお陰で身長の方も急成長した娘と身長がほとんど同じになった前回の帰省。夏休みに帰って来たらすぐまた横に並んで、きっと抜かれる事となる背比べに喜びを感じる事を楽しみにしています。

くま爺のつぶやき・・・

統括主幹　山本 光則

先日、大阪市内の中学校が修学旅行で富山県に。利賀村では６５人の生徒を受け入れ、１４軒の民泊に分かれて山村の暮らしや農作業等の体験をした。村内移動のお手伝いをしていると、田植えを予定していたお宅から声がかかり一緒に作業をした。長靴ではぬかるんだ田んぼでは身動きがとれなくなるので、裸足で泥の中に入ってもらった。最初はかなり尻込みしていたが、やがて膝上まで泥に浸かり苗をしっかりと植え米づくりの体験をした。都市部で生活している青少年にとって農業にふれる活動は大きな意義があると思う。

みなさんご存じの慶応の牛島ゼミの学生たちは、年中村を訪ねイベント等に参加して地域の活性化に取り組んでいるが、今年から野菜作り等の農業にもかかわることになった。ジャガイモ、サツマイモ、カボチャ、エダマメ等の植え付けから草引き、収穫までかかわる予定である。